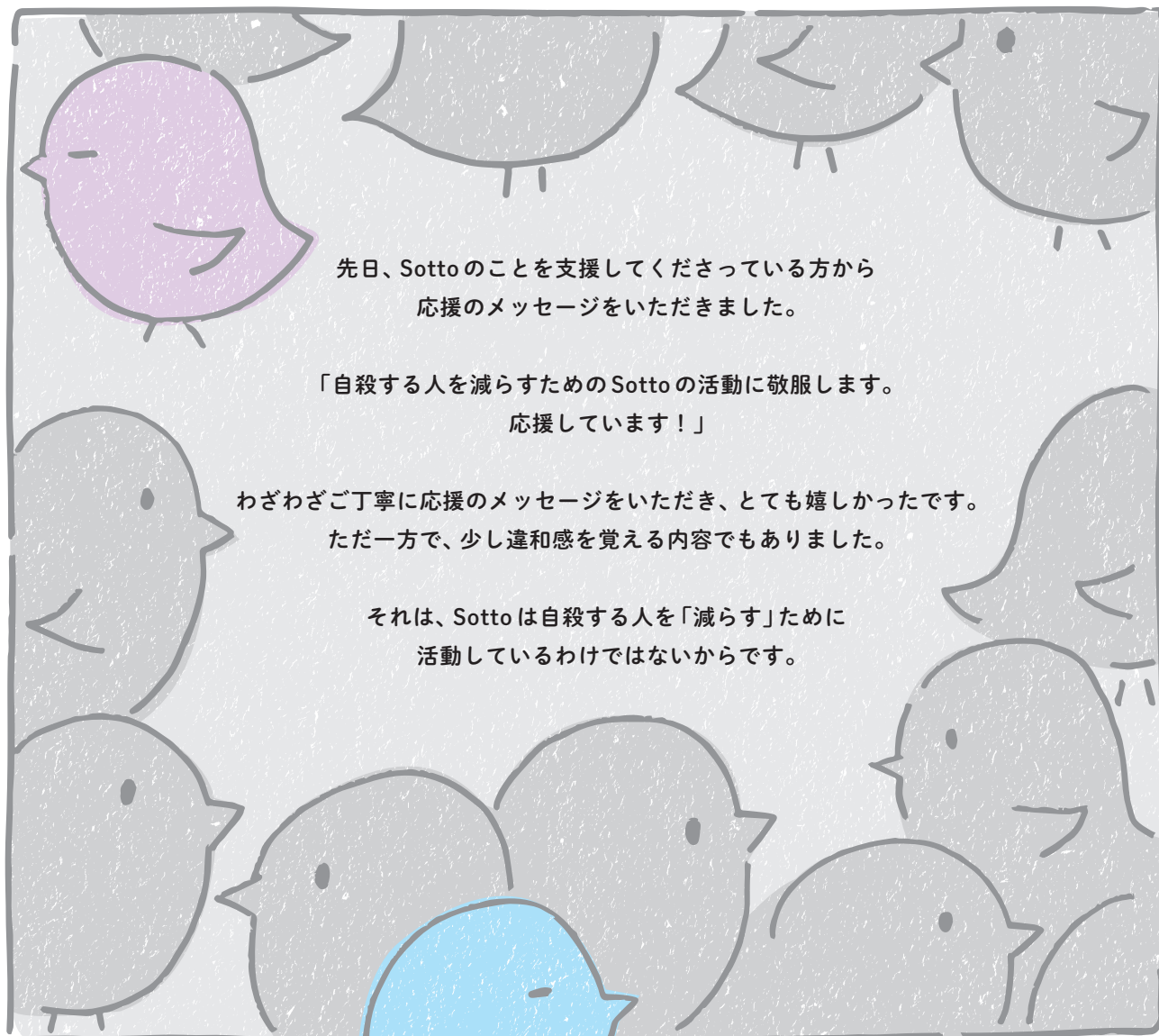


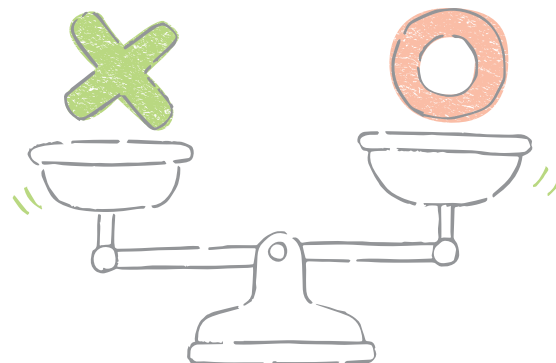
認定特定非営利活動法人
京都自死・自殺相談センター Sotto
2019 年度 事業報告書



善悪を問わない

「自殺する人を減らす」という言葉のなかには、「自殺したいなんて思っちゃいけないもの」「自殺、ダメ、絶対」というニュアンスが無意識ながらも含まれているように感じざるを得ません。

「自殺する」という行為は、つらく苦しい現状から楽になるための一つの手段なんだ、とSottoは捉えます。状況や環境さえ整ってしまえば、誰もが選択する可能性があること。なので、自殺そのものの善し悪しを問うつもりはありません。



そっとそばにいる

Sottoは「自殺したい」「死にたい」を否定しません。が、もちろん、自殺することを応援するわけではありません。その「自殺したい」「死にたい」という苦悩が和らぐことを目指しています。

「自殺したい」「死にたい」という想いは、そうとしか表現できない状況であること。その表現の背景にある苦悩や想いを分かってもらえないと、よけいに孤独感が強まり、さらにしんどくなってしまいます。

もしSottoが「自殺する人を減らす」「死なせない」を目的としていたら、その人の想いや、抱える現状を否定しないといけません。

「自殺なんて考えちゃ駄目だよ」
「生きていれば良いことがあるから、もう少し頑張ろう」

Sottoができることは、死ぬほど思いつめているときに、そっとそばにいること。その人の抱えきれない気持ちを受け取ることによって、あるいは一緒に悩むことによって、孤独感による辛さを和らげること。

「そっか、自殺したいという想いがあるんだね」
「迷惑かけるから駄目って思っても、自殺未遂しちゃうんだね」

どうしようもない孤独や絶望のなかにあるときほど、ちゃんと自分に向き合ってくれる存在は何者にも変え難くあたたかく感じられます。ひとりじゃないと感じられるだけで「まだこの世も捨てたもんじゃない」と思えることもある。最期は自殺を選んだとしても「そばに誰かがいてくれた」と感じることもある。そう信じて活動しています。

全国にひろがる Sottoの活動

2010年に開設したSottoも、ずいぶんと広がってきました。活動をともにする仲間、団体も仙台と広島にでき、さらに東京でも新たな団体を作りたいという声が上がっています。

Sottoでは、これまでの相談活動や毎年開催しているボランティア養成講座での経験を活かし、出前研修「たんぼぼ」とのネーミングで講演依頼等を承っています。「たんぼぼ」と名付けたのは、Sottoの理念や想いがたんぼぼの綿毛のように各地に広まって、根付き、そして花開けばいいなどの願いです。

Sottoはこれまでもこれからも「自殺したい」「死にたい」想いを抱える方の苦悩が和らぐことを目指し、活動に励みます。

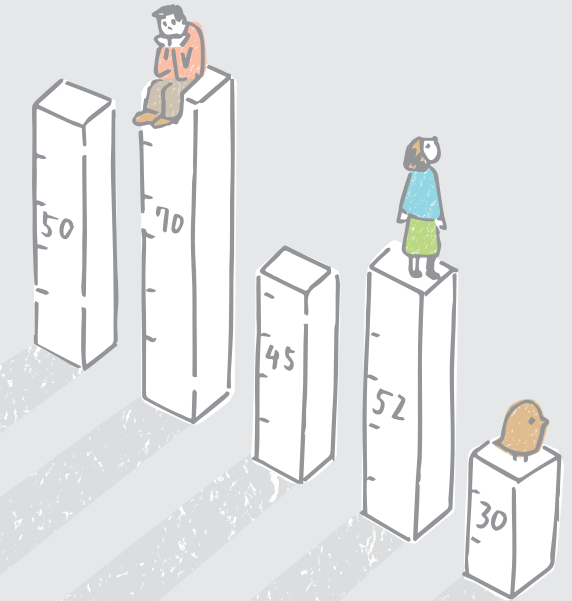
認定NPO法人京都自死・自殺相談センター Sottoスタッフ一同



自死・自殺の苦悩を抱える方の心の居場所をつくる

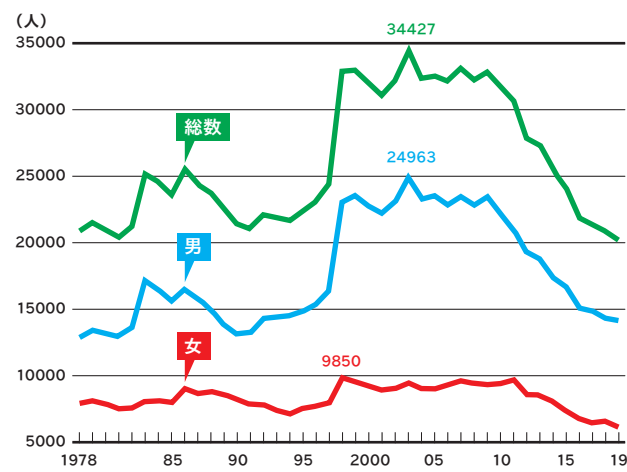
死にたいほどの気持ちを抱えている時には、周囲の人のちょっとした否定的な言葉や態度により、絶望的な孤独に突き落とされることさえあります。そんな状態にある時だからこそ、安心して過ごせる温もり溢れる居場所が必要です。

Sottoは自殺する人を「減らす」ことを目的にして活動しているわけではありません。一方で、自殺の社会的な現状も把握しておくことは大切です。ここでは、自殺者数の推移と、各国の自殺率比較を提示します。さらに、Sottoの重要な視点である「孤独」にまつわるデータも紹介します。



自死・自殺の現状

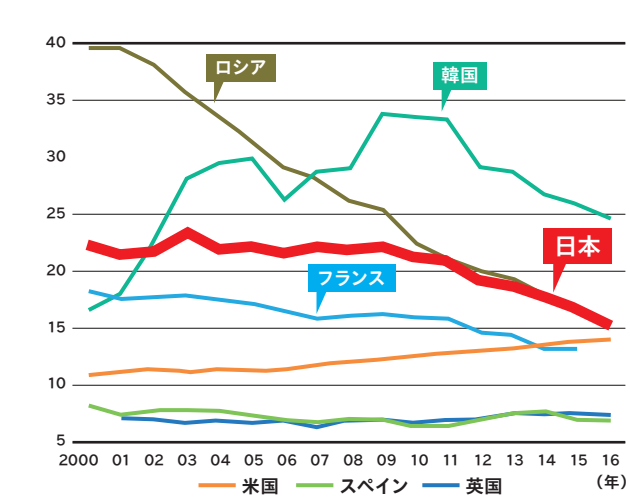
自殺者数の推移（自殺統計）



参考：nippon.com

警視庁の報告によると、2019(令和元)年の全国の自殺者数は、2018年より671人(3.2%)減って2万169人となり、10年連続で前年を下回りました。1978年の統計開始以来、最少です。

自殺率推移

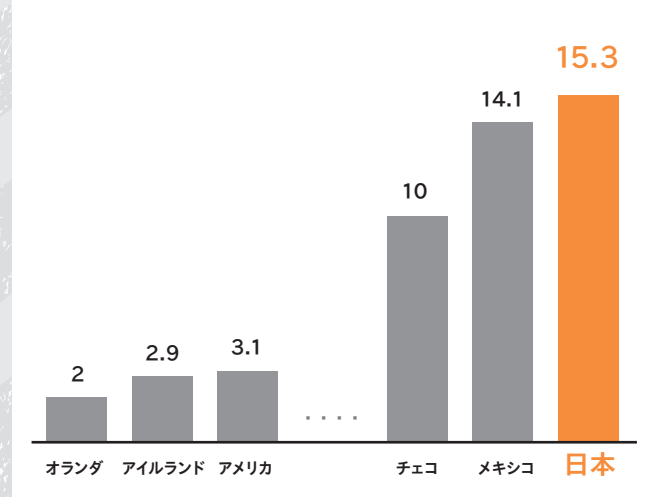


※自殺率は人口10万人あたりの自殺者数
参考：nippon.com

ただ、世界的に見ると日本の自殺率は決して低くはありません。OECDの公表データによれば、1998年以降、G7(先進7カ国)のトップを走り続けています。

日本における孤独の問題

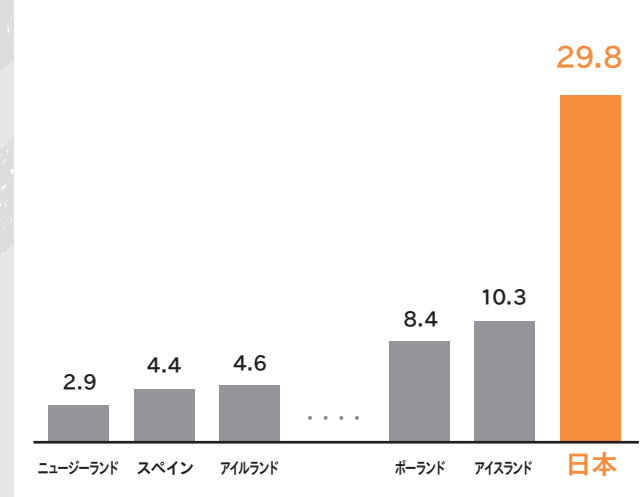
「日常生活での交流がめったに・全くない」割合 (%)



参考：“CO2.SOCIAL ISOLATION”, Society at a Glance 2005, OECD Social Indicators, 2005

2005年のOECDの社会的孤立に関する調査をみると、スポーツや地域の活動など仕事以外の日常生活において、友人や職場の同僚などの知り合いに会っているかという質問に対して、日本は全てに対して「めったにない」あるいは「全くない」と答えたのが15.3%と世界でトップです。

「自分は孤独だ」と感じる割合 (%)



参考：“An overviewing of child well-being in rich countries” UNICEF Innocenti Research Centre, 2003

さらに、孤独なのは大人だけではなくありません。2007年にユニセフが発表したOECD諸国における子どもの幸福度調査において、「自分は孤独だ」と感じる15歳の日本の子どもの割合は、24か国中トップの29.8%です。

参考

警察庁「令和元年中における自殺の状況」 https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/jisatsu/R02/R01_jisatuno_joukyou.pdf

nippon.com「自殺者、10年連続減で過去最少に：自殺率はG7で最悪」 <https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00681/>

ジャパン・フォー・サステナビリティ「日本の子ども、先進国の中で最も「孤独」」 https://www.japanfs.org/sp/ja/news/archives/news_id024496.html

World CARP JAPAN 公式Blog「日本人は世界一孤独!?驚きのデータ」 <http://worldcarp.jp/blog/blog/archives/3012>

活動報告

1 / 居場所づくり （おでんの会）

参加人数（延べ）**148**名
食事の場、研究の場、からだ・こころリラックスの
場を交互に毎月開催、合計12回の実施



2 / 居場所づくり （ごろごろシネマ）

参加人数（延べ）**60**名
6月から毎月1回開催、
合計10回の実施



3 / グリーフサポート （語りあう会）

参加人数（延べ）**14**名 隔月開催、合計6回の実施

Sotto 語りあう会

日時 奇数月第2木曜 14:30~17:00

2019年 5月10日、7月11日、9月12日、11月14日
2020年 1月9日、3月12日

場所 一念寺（〒605-0854京都市南区西九条1丁目2-124）

申込 匿名でもかまいません。前日までにお申し込みください。

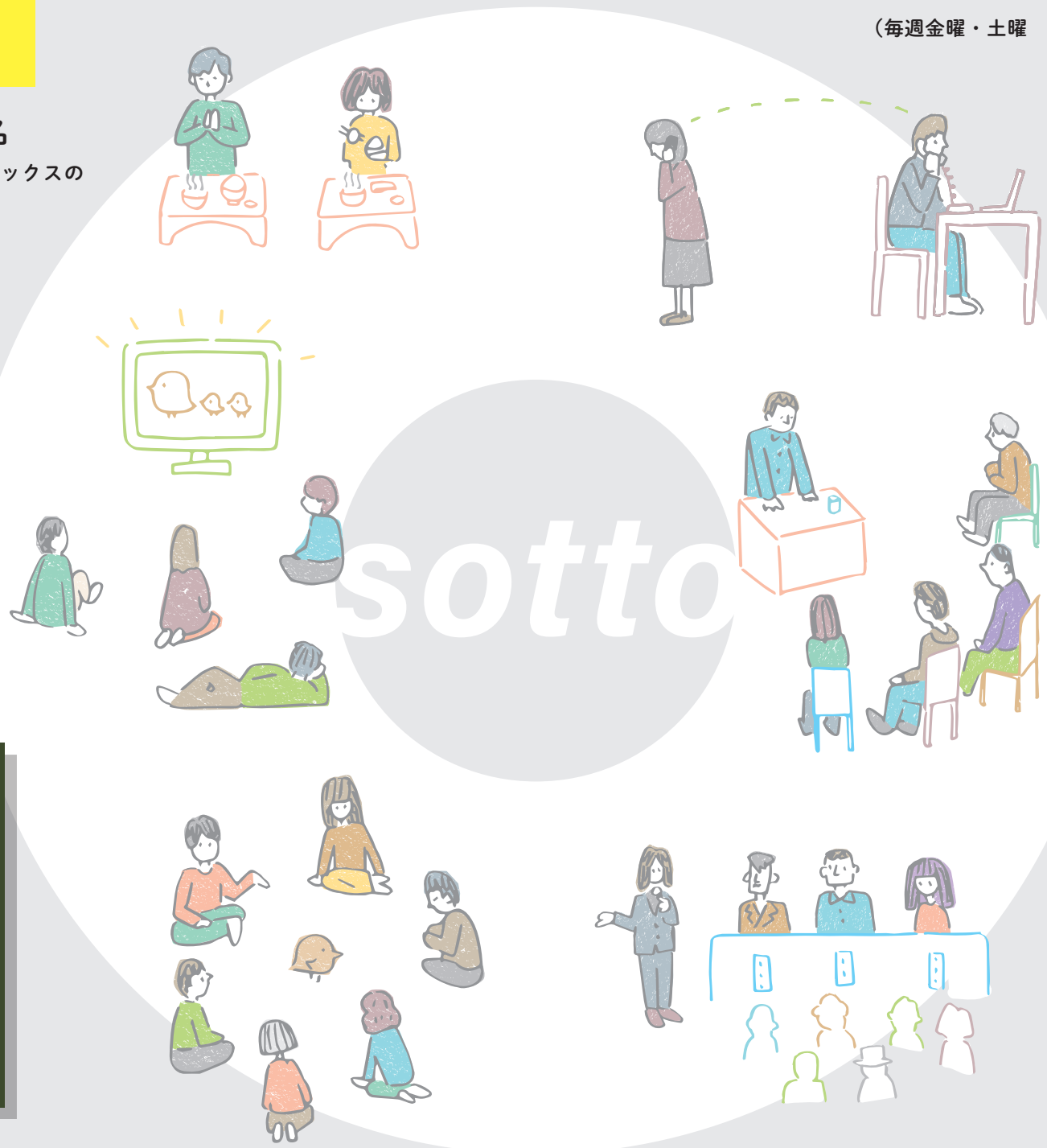
TEL 075-365-1600 MAIL so-dan@kyoto-jsc.jp

※ 研修を受けたボランティアが運営しています。個人情報は厳重に管理します。事前に同意いただいた方には、研修中継の参加レポートが可能です。

タイムスケジュール

14:10 受付	15:30 休憩 (15分)
14:30 開始	16:30 終了

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター Sotto
http://www.kyoto-jsc.jp



4 / 電話相談

電話相談総件数 **679**件
（毎週金曜・土曜 19:00～25:00）



5 / 研修

■ボランティア養成講座の実施
第11期（2019年10月～12月）
参加者数 **18**名

■外部出講

7月/曹洞宗研修会 10月/いのちのリレー講座
11月/花園大学禅塾生向け研修 2月/百合保育園傾聴講座
3月/岐阜いのちの電話出講 司法書士合同相談会

6 / 広報発信

診療内科や保健センターなどにリーフレット、カードの郵送
会報発行（毎月発行、郵送のほかにもメール送付やWEB掲載）

■シンポジウム「続 比較社会漂流記」開催
2019年9月7日（ウイングス京都）
来場者 **130**名

■五者共催企画参画

ライフ in 灯 京都 2019
2019年9月13日
（ゼスト御池 河原町広場）



取材協力一覧

NHK 京都支局 / 京都新聞 / 毎日新聞 / 読売新聞 / 文化時報 / 仏教タイムス / 中外日報 / 本願寺出版
京都府社会福祉協議会 / 下京いきいき市民活動センター
京都造形芸術大学学生の卒業制作 / 関西学院大学大学院生の卒業研究 / 明治学院大学学生の卒業研究

メール相談

メール相談総件数 993件 (2019年4月～2020年3月)
(年中受付 土日祝・夏季休暇・冬期休暇を除く3営業日にて返信)

京都市職員の方の相談から 始まったメール相談

2010年に活動を開始したSottoは、当初その活動において電話での相談受付を主としていました。活動中、社会的に若年層の自死に関心が向けられるようになっていきました。

京都は学生が多い町ということもあり、この問題について何かできないかという相談を当時の京都市の職員の方から受け、Sottoでも検討を重ねた結果、メール相談事業を始めることとなりました。

まず、悩みをお持ちの方は専用HPのフォームからSottoへ相談のメールを送っていただきます。Sottoの相談スタッフは相談文を読み込み返信を書きますが、それをすぐに返信するわけではありません。相談者の思いを誤解したまま返信したり、Sottoとしての姿勢がぶれたりしてしまうことを避けるため、返信前に他のスタッフと意見を交換し最終的な文案を作成します。この過程があるので、相談メールを頂いてから返信まで最大で3日(土日・祝日含まず)をいただいています。

「相談しやすさ」を 一番に考えたサイト設計

メール相談の相談フォーム作成にあたり、色味、フォント、文字の大きさ、バナーの配置場所など、決めることは多岐に渡りました。目的としてイメージしたのは、とにもかくにも悩みを持つ方が「ここなら相談できる」と思ってもらえるようなサイトにするということです。

どのボタンをクリックすれば相談フォームに飛ぶのかがひと目で分かるようにし、また相談に際してのフォームの入力を必要最低限の情報に限定しました。

また、自分の気持ちを吐き出したいだけ、という方もおられるかもしれないということで、「返信を希望しない」というチェック欄をフォームに設けました。



年間およそ1000通の 相談を受けるように

メール相談の受付を始めて継続していく中で、相談を多くいただくことにまず驚きがありました。当時メール相談の広報はさほど積極的にはしていなかったからです。

2013年の9月に相談窓口をオープンし、最初の月こそ両手で数えられるほどの件数しか来ませんでした。翌月からはどんどん相談件数が伸び、1年目を終えて計514件の相談がありました。うち約7割が若年層からの相談で、時代におけるメール相談のニーズを確かに感じました。それ以降現在まで活動を続けてきましたが、年間1000件ほどの相談を継続的に受け付けています。2019年度に受けたメールは、計993通でした。



メール相談の長所・短所

メール相談の長所は、対面や電話で話すよりも気軽に相談ができるという点にあります。今の若者はテキストでのコミュニケーションに非常に慣れており、全くの他人に電話で悩みを話すことには抵抗がある人が多いのではないかと思います。また、メールは非同期型のコミュニケーションであり、あくまで自分のタイミングで返事ができる点も大きな長所です。

そのような利点がある一方で、コミュニケーションにおける困難も伴います。テキストのみのコミュニケーションでは、ディスプレイに無機的に表示される文字列から、相手の有機的で複雑な感情を感じ取る必要があります。対面や電話で話すより、メールにおいては相手を知るための情報量が限られています。

人間の気持ちはとても複雑なものです。ましてや「死にたい」と思うに至るまでの気持ちはなおさらです。4文字の「死にたい」にも、それを書く人の気持ちの数だけの死にたさがその背景にあるのです。言葉という形を取り切れていないそんな思いにいかにか敏感になれるか、そこに対する想像力・感度を高い次元で持つということが相談員には求められます。

毎月開催する相談員の振り返りの場

上記のような難しさがある以上、相談員が相談者の意図を汲み取り間違えたり、個人的な思い込みを持ったままメールのやり取りを続けてしまったりする可能性は常に存在します。

そこで、毎月メール相談を担当しているスタッフたちで集まり、一月の活動を振り返る時間を設けています。ここでは、実際にいただいた相談のメールの中で、Sottoの返信に対して一度も返信がなかったものを取り上げてスタッフで見直します。返信がないということは、相談者の方がやり取りを続けたいと思える返信ができなかった可能性があるということだからです。

相談文の行間に込められた思いを想像し、相談員同士で意見交換します。相談員の中でも、感じ取ったことは微妙にニュアンスが違ったり、気持ちの受け取り方にかすかに違いがあったりします。この時点で非常に多くの気づきを得られます。他の人の受け取り方を知ること自体が学びであると同時に、改めて言葉を解釈することの難しさを自覚する

こととなります。

そうして相談者の立場を想像した後、もし自分がこの相談者だったらと想像し、Sottoから送られた実際の返信文を読みます。普段は当然ながら相談を受ける立場としてメールを読んでいるのですが、意識的に見方を逆転させることで、自分たちの対応を相手の視点から見つめ直します。この過程において発見は多く、スタッフにとって非常に重要な場になっています。

他者の視点を取り入れ気づきを蓄積していくことが、スタッフにとってSottoの理念をぶれずに持つために大きな役割を果たします。時に自分本位の視点のみによって相談者のメールを読んでしまうことを完全に防ぐことはできませんが、その危険性に自覚的になる事はできます。人の大切な思いをお聴きする活動を行っている私達は、いくら相手の気持ちについて敏感になろうと努めてもやりすぎということはありません。



ファンドレイジング

ファンドレイジング事業、実績報告

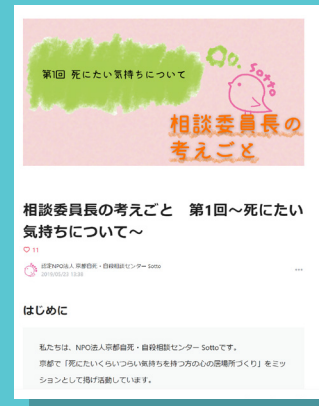
- ・バースデードネーション企画 2回実施
- ・note 76記事掲載（2019年4月～2020年3月）
- ・ラジオ 22回公開（2019年9月～2020年3月）

バースデードネーション



バースデードネーションとは、団体の代表者などの誕生日に合わせて特定の団体に寄付を行うことで、お祝いと社会貢献活動が同時にできる仕組みです。寄付プラットフォーム「Syncable」の機能を利用しました。2018年度に、Sotto代表竹本の誕生日に合わせて初挑戦し、2019年度も引き続きの竹本のバースデードネーションを開催しました。また、団体自体の誕生日も祝ってよいのではということで、Sottoの9周年記念のタイミングでもバースデードネーションを行いました。結果、竹本の誕生日には計24名の方から計60,000円、Sotto9周年では計17名から37,500円のお祝いを込めたご寄付をいただくことができました。

note



ブログサービスの「note」をSottoとして始め、Sottoの活動紹介やスタッフのコラムなどを掲載しました。Sottoを応援してくれるサポーターを増やすには今やネットでの発信が不可欠と考え、じっくりと記事を書けるnoteというプラットフォームを選ぶこととしました。ただ単にサポーター集めのために記事を作っているわけではなく、今まさに死にたいくらい思いをされている方が少しでもほっとしていただけるように、と考えて発信をしています。

電話・メール相談に加え、各居場所づくり事業の活動紹介はもちろん、ゆるくて面白く読めるものもあれば、と意識しています。

Sotto設立初期から相談員を務める「ねこ」さんの連載コラム『相談委員長の考えごと』や、Sottoの事務局勤務経験者であるスタッフの「ナマ子」さんの日常を綴った『ナマケモノ日記』などが人気です。

Sottoのnoteはコチラ

https://note.com/kyotojsc_sotto



ファンドレイジングとは、「資金調達」を意味する言葉で、主にNPOの文脈では寄付集めや補助金の獲得などを積極的に行なっていくことを指します。

利益事業を行なっていないNPOにとっては、活動を継続していくために必要になるのがファンドレイジングであり、ファンドレイジング的な思考です。

ここでは、2019年度にSottoのファンドレイジング部門が行なった活動をご紹介します。

Sottoラジオ



2019年7月にSottoの有志で「3年後のSottoの姿を考えてみる」という趣旨でミーティングを行いました。そこで、参加メンバーそれぞれが「3年後くらいにはSottoはこういうことをやってみたらいいかも」という案を出し合ったのですが、そこで出た案の一つがSottoでラジオ番組を作ってみる、というものでした。ラジオと聞くと何だか今どきでは古い印象を持たれがちですが、情報が溢れすぎているこの時代だからこそラジオという素朴なメディアの魅力は際立つのでは？という意見がスタッフから出されました。

そこで、YouTubeを活用し、スタッフ二人をパーソナリティに迎えた『Sottoラジオ』という番組を始めてみることにしました。

内容は、できるだけ肩の力を抜いて聴いていただけるように、とにかくゆるい調子でお届けしており、時折Sottoに関わりのあるゲストを招きながら、Sottoの活動やスタッフの思い、時には雑談までお話しています。

Sottoラジオを通じてSottoの理念や活動をより深く知っていただき、応援してみようと思ってくれる方が一人でも増えれば幸いです。

同時に、これ以上ないくらいにゆるいSottoラジオを聴いて、少しでもつらい気持ちが和らいだ、と感じていただけるようなことがあれば、私たちとしてはこれ以上のやりがいはありません。

Sottoラジオは限定公開（URLやQRコードから直接アクセスのみ視聴可能）となっています。

Sottoラジオの一覧はコチラ

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLsUHmUyC6d8FeZdBYi8IWPfdVbUXNlr7C>



ロールプレイ



Sottoでは、電話での相談を毎週金・土曜19:00~25:00の時間帯で受け付けています。毎年行っているボランティアスタッフ養成講座では、電話での相談を模した「ロールプレイ」と呼ばれるワークを繰り返し、受講者はSottoの活動の基本姿勢を身に付けていきます。

また、相談員は毎月、「振り返りの場」と称した場を設け、Sottoの理念や基本的な姿勢を確認し、相談員としての姿勢を見直す時間を取っています。この振り返りの場でも、相談員としての姿勢を再確認するためにロールプレイが行われています。ここでは、そんなロールプレイについてご紹介します。

1 チェックイン

ロールプレイは、まず参加メンバーがその時の自分の気持ちを一言で皆と共有することから始まります。「疲れています」「徹夜で用を片付けてめちゃくちゃ眠いです」「今日はいいことあってテンション上がってます」etc...自分の率直な気持ちや心の状態を開示し合うことで、アイスブレイクとして機能すると同時に、きっかけがなければ言いにくい互いのコンディションを把握する機会になります。



2 理念の再確認

チェックインを終えると、ロールプレイを行う上で大切なことを改めて全員で確認します。相談の中で相手を変えようとしたり、分かったふりをしたり、決めつけたりせず、ただ気持ちを受け取ること。Sottoが大事にしているものは、明文化するとそう長いものではありません。それでも、それを忘れていたり逸脱してしまったりしないよう、毎回確認をするのです。



3 ロールプレイ

ここから、電話相談のロールプレイに入っていきます。ロールプレイは、スタッフが相談者役と相談員役に分かれ、電話相談を再現して行うものです。Sottoでは、相談者役のことを「コーラー」（相談者は電話をかけてくれるため、電話をかける人という意味で）、相談員役のことを「メンバー」（Sottoの活動メンバー）と呼んでいます。

コーラーのスタッフは苦しい状況に置かれた人の事例を読み、実際に自分が「死にたい」と思う段階まで気持ちを持っていきます。ここでの事例とは、現在非常に辛い状況にあり自殺願望を抱えていることを想定した例文です。Sottoが独自に作成したもので、実際の電話相談で受けた内容を使用することはありません。

コーラーが気持ちを集中しきるまで、ロールプレイは始まりません。どれだけ時間がかかろうとも、コーラーの心の準備ができるまでじっと他のスタッフは待ちます。それまでに5分、10分かかることもあります。

コーラーの気持ちの準備ができると、電話の着信音を声で再現するところからロールプレイは始まります。

「ブルルルル プルルル・・・」



「はい 京都自死・自殺相談センターです」「すみません、もう疲れちゃって、終わりにしようと思ってるんです」このような形でロールプレイは始まります。

10~15分ほどの一回のロールプレイの中で、コーラーはメンバーの対応によって気持ちが動き、苦しくて泣き出してしまったり、温かい気持ちになったり、怒りがこみ上げてくる場合もあります。どれも、実際の電話相談で起きうることです。

コーラーはロールプレイを通じて、死にたいくらい辛い時に相手にこんなことを言われたらさらにつらくなるとか、あるいは嬉しくなる、そういったことを身をもって体感します。メンバーは、自分では良かれと思って言ったことが時に相手を傷つけたり、うまく言葉を返せなくなったりする経験をするにより、その後の相談員としての活動に活かす教訓を得ます。

4 振り返り

また、ロールプレイを客観的に見る数人のスタッフもいます。ロールプレイが終わった後にその内容について振り返る時間を設け、そこではそのロールプレイを見ていたスタッフの客観的な意見や感想も交え、終わったばかりのロールプレイの内容を掘り下げながら振り返っていきます。

それぞれが感じたことを率直に話すことが全員の学びにつながるため、振り返りの時間では活発に意見交換や気づきの共有がなされます。実際の電話相談で相談者の方に不安や辛い思いを与えることがないように、こうしたトレーニングの場では率直に指摘し合い、相談員としての向上を目指しています。

ボランティアインタビュー

Sottoの初年度からボランティア研修を受け、現在も相談員として活動を続けているMさん。そんなMさんに、研修を受けていた頃のことについてインタビューしました。

Q どのような経緯でSottoに入ったんでしょうか？

ボランティアの第一期生やから・・・もう何年前から活動してるんやろ(笑)。そもそもは家族が自死したのがきっかけで。あとほんまのことを言うと、Sottoの事務所が西本願寺の近くにあったからというもあります。元々仏教好きなんで。そこでたまたま、こういう団体がボランティアを募集するということで、私にはすごくタイムリーでした。ただ、1期生として研修を受けて・・・ほんまのところ、びっくり仰天してしまって。「ええ、こんなことやるの？」って。



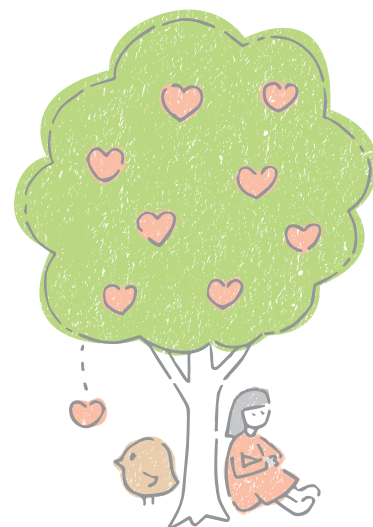
Q 研修の内容に、でしょうか？

はい。まず実際の電話相談を想定して行うロールプレイで衝撃を受けました。若い人は学校でロールプレイみたいな形式のことをやったりすることがあるかもしれないけど、私は学校を出たのは何十年前なので。途中で辞めはしなかったけど、毎回毎回しょげて帰って、自分でも「毎回よく来てるな」と思うくらい。自分のいた世界と全く違うことをやっているところだったから。考え方も。それは「本当に当事者の気持ちを考える」ということ。私が良かれと思

う気持ちじゃなくて。Sottoに来るまで私は、別にそれまで人を助けようとか思って生きてたわけではなかったけど、Sottoで自分の中の「助けてあげよう」というような恣意的な部分に気づいたんです。研修を受けてロールプレイをやっていると、自分の恣意的な部分ばかり出てくる。「あっ、言ってしまってるな」という。衝撃的で、自分を見つめ直さざるを得なかったです。

会計報告

私たちは自死・自殺にまつわる苦悩を抱える方々のために相談活動をはじめとする事業を行ない、それらを継続するために収益を得ています。その財務状況を明らかにするために、事業の結果と合わせ、NPO 会計基準に則した収益と事業にかかる費用をお知らせいたします。



		科目	金額
経常収益		会費	665,000
		寄付金	4,403,908
		事業収益	1,244,988
		助成金	4,407,000
		受取利息	8
		経常収益計	10,720,904
経常費用	事業費	電話相談事業費	521,302
		メール相談事業費	2,126,464
		居場所づくり(おでんの会) 事業費	1,262,158
		居場所づくり(ごろごろシネマ) 事業費	1,329,117
		研修事業費	868,447
		グリーンサポート・自死遺族居場所づくり事業	563,380
		広報・発信事業費	3,297,913
		ファンドレイジング事業費	1,139,382
		被災地支援事業費	98,040
		事業費計	11,206,203
		管理費	1,585,299
	経常費用計	12,791,502	

単位(円)

【連携協力団体】

京都府

居場所づくり事業・自死念慮者居場所づくり事業・情報発信事業における企画運営への助言・助成金の付与。官民連携の四者共催企画での連携協力。



京都市

メール相談事業における企画運営への助言・助成金の付与。官民連携の四者共催企画での連携協力。



株式会社エクザム

ホームページの全般の管理運営。



浄土真宗本願寺派

助成金の付与。事務局場所の提供。



【組織概要】

設立 2010年10月20日

法人格取得 2011年4月21日

【役員】

理事長

生越 照幸 (大阪弁護士会所属
弁護士法人ライフパートナー法律事務所在籍)

理事

宇野 全智 (曹洞宗総合研究センター常任研究員)
 丘山 新 (浄土真宗本願寺派総合研究所所長 東京支所長)
 金子 宗孝 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター)
 小坂 興道 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター)
 武田 慶之 (ひろしま Sotto 代表)
 竹本 了悟 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター代表)
 玉木 達也 (毎日新聞大阪本社 論説委員)
 中西 正導 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター)
 野村 清治 (リメンバー名古屋 共同代表)
 野呂 靖 (龍谷大学文学部 准教授)
 東 信史 (まちとしごと総合研究所)
 廣谷 ゆみ子 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター)
 松本 俊彦 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所薬物依存研究部 部長)
 吉田 典生 (認定特定非営利法人京都自死・自殺相談センター)

監事

高橋 一仁 (浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)

ご協力の お願い

京都自死・自殺相談センター Sotto の活動は、寄付または会費によって運営されています。みなさまの「力になりたい」というお気持ちに支えられています。

■賛助会員になる

個人…1口 3,000 円/年

法人…1口 10,000 円/年

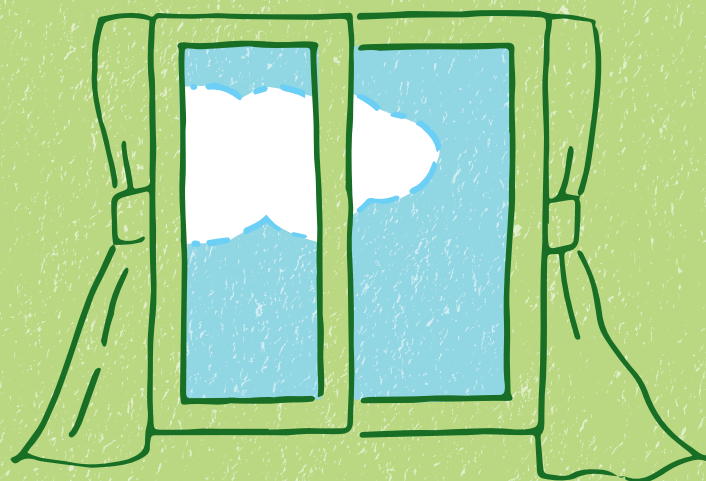
ゆうちょ銀行窓口より払込取扱票に会員登録の旨をご記入のうえ会費をお収めください。

振替口座 00950-0-271875

■寄付をする

QRコードをスマートフォンでスキャンしていただくと、クレジットカード寄付サイト「Syncable」へ移動します。会員登録不要で気軽に寄付していただけます。その他の寄付方法等につきましては、事務局までお気軽にお問い合わせください。





認定特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター

www.kyoto-jsc.jp

tel:075-365-1600 mail:so-dan@kyoto-jsc.jp